

対談

中国の時間・日本の時間

慶応義塾大学教授

東京外国語大学助教授

村松 暎

中嶋 嶺雄

時間に耐える ということ

村松 作家の陳舜臣さんが『日本人と中国人』という著書のなかで、結局、中国の自然と日本の自然が民族性を決定しているといっています。確かにそうだと思うんです。それは要するに中国の自然というのは、アラビアなどのように絶望的ではない。黄河があふれても統御できるというんですね。しかしそれはたいへんな苦闘をしてくている。日本

の自然というのは、台風でも地震でも一過性のもので、クビをすくめていると通り過ぎてしまうものだといわけます。ここに中国と日本の根本的な違いをみておられる。

これは本当にあの広大な中国——飛行機に乗るとよくわかりますが、どこまでいっても畑があつて村々がバラバラという景色が果てしなく続く——そのなかで暮らしていたら、日本人のようにあくせくしたつてしょうがないという気がするでしょうね。

日本人だと、なにか一生懸命やれ

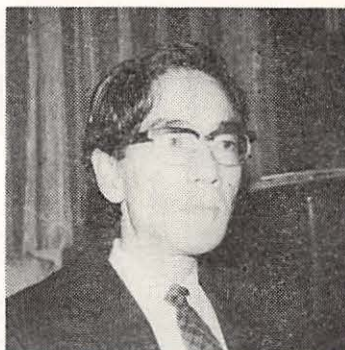
ば結果がでますよね、大体。けれども、結果をだそうにもあまりにも茫漠としていて、その結果がでないからといってじれていたのでは生きてはいけません。

中嶋 おっしゃるとおりだと思います。時間の観念についての違いは……。これは単に日常生活の問題ではなく、時間を通りこして歴史とかものの考え方という根本的な問題で非常に違うなと思います。私はいくつかそういう場面に直面しました。

村松先生ですが、私も文化大革命のときに中国に行きまして、とに

かく紅衛兵がどこに行つても一生懸命に旗をもつて毛沢東語録を掲げてやっていましたでしょう。それは、確かにひとつの中国の断面なんです

が、たとえば広東の珠江のほとりに、そういう世界とは全然関係ないおとなたちが一日中ひなたぼっこしていましたね。これもやはり中国のひとつの姿なんですね。紅衛兵運動などは、彼らが考えている中国人の長い時間のなかには、いわばうたかたのものにすぎないんだというような感じでひなたぼっこしているんですよ。これも中国のなかにある。



村松 暎氏



中嶋 嶺雄氏

もうひとつは香港での話なんです
が、ご承知のように、ここ香港島は
イギリスに割譲したものですから、
国際法上、道義的な問題として考え
れば中国の領土なんです。ですから、
イギリスの領土です。ですから、
アバートの契約などに「九九九年」
というのがでてくる。九九年契約も
ありますが、主なものはほとんど九
九九年なんです。これはある意味
では、九、九、九と三つ重なって、
「九」というのは中国で「チョウ」
という。「久」もそうですね。だか
らもう無期限だという意味らしいん
ですけど、われわれ日本人から考え
ると、こういう感覚があるというこ
とは、ただただ非常な驚きですね。

さらにもうひとつは、日本の新聞
はあまり報道していませんが、香港
では命からがら逃げだしてくる人が
このところ非常に多いんですね。特
に文革で批判された中堅クラスの幹
部に多い。こういう人たちに会っ
て、われわれの感覚からいえば林彪
そのものがかかしている問題もあ
るので、「毛沢東体制はあと五年維
持しうるか」という質問をぶつけま
す。ところが、逃げてきた知識人、
ジャーナリストでしたが、たいへん
失望しているんですね。しかしなが
ら「あと五〇年はいまのままの状態
が続くでしょう」というわけです。
ちょっとびびくりしました。われわ
れは二年か三年でどうにかなるんじ
やないかという気持ちでものをみる
んですが、そういうとき中国人とい
うのは、いわばしぶとさというか、
ものごとじつと耐えていく考え方

・思想をもっています。はたしてど
ちらが強いかというと、本当はこの
ほうが強いんじゃないかという気が
するんです。

ですから、同じ中国のなかでも、
こうした中国人の歴史的・伝統的な
時間という観念にさからおうとし
て、なにかせつかに事をおこすと
すべて失敗している。私はむしろ毛
沢東は中国の時間を十分とらえるこ
とができなくて失敗しつづけるんじ
やないか、つまり、党規約のなかに
林彪を後継者だなんて書いてしまっ
たのは、時間の観念に自身でさから
ったのだと思うんです。大躍進政策
もそうですね。

村松 一五年でイギリスに追いつ
こうとした……。

中嶋 そうです。なにかそういう
ことを感じますね。

歴史がつくった 中国の時間観念

村松 「悠久の大地」なんてこと
をいいますけど、飛行機に乗って三
〇〇〇メートルぐらいの高さから見
て山がないようなところの真中を揚
子江がぐうっと流れている、地平線

は見渡す限り続いている。これを見
ると「悠久」という感じがいかにも
しますね。だからわれわれみたい
にあわてませんよ。

日本で紅衛兵運動なんかあったら
たいへんだらうと思います。実権派
がクビ根っこを押えられて引きずり
回されているわきを、工場がひけて
帰る人が自転車でたくさん流れて行
くんですが、見向きもしないんです
よ。サッサと行ってしまおう。あの感
覚というのは、先ほどの日なたぼっ
この連中とまったく同じですね。そ
んなものが長続きするとは考えてい
ないんだらうと思います。一時的な
いろいろな現象が浮き沈みしておこ
る、そのひとつというふうにとらえ
方……。

中嶋 ですから、毛沢東語録をみ
んながああやって振り回しているの
も、実は毛沢東を信用してないから
じゃないかという気がします。つま
り、大衆の政治不信です。指導者と
か支配者がしょっちゅう変わるとい
うことがそうさせるのでしょうか……。

特に中国共産党が政権を確立して
からは、ともかくも毛沢東の後継者
だと思われる連中、ともに中国革命

を長い間闊つてきた人たちが、次々に反革命とかスパイになっていくわけでしょう。まさかだれも劉少奇がそうだとは思わなかったのに、結局そうなって、今度はまた、あれほどの文革で林彪を後継者に指定し、毛沢東の権威を絶対化したと思つたやさき、それもくずれはじめているんじゃないかということですね。まだ林彪が失脚したかどうか断定できませんが、私はどうもおかしいと思うんです。

こうなると一般民衆は、政治とは一体なんだということになるんじゃないでしょうか。手の届かないところでのいろいろな闘争があるんだと考えると失望して政治を信用しない。だから、とにかく毛沢東がでてきて紅衛兵が動けば、それはそれでいいんだという気持ち——どうも私はそういう結論なんです。

中国は表向きは政治第一というところをいうし、日本の新聞などでも、中国は完全に政治第一の社会であり、すべてが政治優先で、そのなかで大衆が教育され固まっていると伝えていっているんですが、そうすると、たとえば九全大会のこの二年間ほどを見てみると、どうもおかしいんです。

ね。文革で旗を振った連中がみんな消えていったりで……。

結局、日本人的な目で、日本人的な時間感覚で中国を見れば、みんなが政治的に固まっているように見えるんですが、中国人的な感覚で政治というものをとらえると、どうもそうではないんじゃないかという気がします。

村松 その意味では、中国人というのは、非常に政治的だと思えますね。大きな権力がなにかをしたときに、すぐにそれにさからったりすれば自分が没落するんですから、へたに動かない。嵐がきたときには行き過ぎさせる知恵をたくみにもっているわけで、語録を振っているから一致しているんだというような皮相で短い見方は、歴史的にもできませんよ。

これは民衆のことではないんです。が、則天武后が帝位についたときに狄仁傑という宰相がおりまして、頼りがいのある人物でもあったので武后が大いに重用した。彼のほうも一生懸命やる。だから協力しているかという、彼は武后が亡くなった場合の手をちゃんと打っているわけです。自分の腹心を重要な地位にあげ

ておき、その男が彼の死後、クーデターをおこすんですから、それだけの長さというものはかっている。日本人の歴史は、そんな長い計画というものの、自分の生涯が終わってから後に結果がでるといふようなものはあまりないと思います。

漢の呂后のときにも陳平という宰相が同じようなことをしているわけです。この場合は協力しちゃうんです。呂氏の一族で固めようとするのとに、三人いる宰相のひとりとは反対するんですが、ほかのふたりは「結構でしょう」という。彼らは、高祖皇帝と馬の血をすすって、劉氏以外を王にする場合には、一致協力してそれを討つという誓いをしており、反対した宰相が、その誓いに背くじゃないかという、君民たいに直接正しいことを主張することでは、われわれは君に及ばないが、長い見通しで事を運ぶという点では上なんだぞ、というようなことをいうんです。結局、反対した宰相は落とされてしまふ。

陳平という人は、このとき酒色におぼれるんです。だから見て見えるから、呂后は安心しているわけですけれども、さて呂后が死ぬとその陳平

が動きだして劉氏の天下を復帰させるんですからね。

われわれだと、ある事柄があると直ちにそれに反応しないと承知できないところがありますが、大きな流れは一応やり過ごしておいて、どのくらいの時間がかかるのかわからないけども、いつかは終わるんだという長い時間の観念は、昔から中国人が伝統的にもっているものだと思いますよ。長い歴史に対する感覚というのは、民衆までもっているんじゃないでしょうか。

歴史がつくりだした時間といえ、時間感覚であろうというふうに思いますね。

中嶋 歴史とか、先ほどの自然の違いとかは、やはり大きいんですね。

日本は小さな箱庭で、ある意味ではよきかもしれないけれど、四季の訪れがあり、すべての景色があり、すべての自然現象がそろっている国で、これはちよつと類がないでしょう。そういうなかでこせこせして、とにかく日本人は確かに働きすぎます。本当に働きすぎ。

松村 そうですね。

同族意識に燃える

中嶋 家屋とか家に対する考え方も、日本とはかなり違うようですね。日本の場合は、自分の一生を短く区切っているいろいろな目標をたてる。いくつまでに家をつくるのか、家をつくったあと盆栽をやるのか……。中国人というのは、すごい金もちが別として、一般の平均的な民衆の生活信条から抽出したモデルはできにくいと思いますね。これは、家とか家族とかに対する違いです。

日本人は、ひとつの家族がそれぞれ、からをつくって、そのなかに閉じこもり、自己完結して、親戚同志でもお互いに競いあうわけでしょう。中国人はその点あけつひろげで、親戚や同郷が全部集まって繁栄していくというのでしょうか。それは、香港あたりに行くとよくわかるんですが、ご飯をたべるときに、みんなの前で見せびらかして店先のテーブルでたべるわけですよ。しかも使用人も一緒に全部おなじおかずなんです。日本人だったら絶対こういうこととはしない。人目につかないところ

でご飯をたべ、使用人と主人とは違うものをたべるのが普通ですよ。中国人には、そうしてご飯をたべられることがひとつの誇りであって、しかもすべてに平等に分け与えるといった感覚があると思うんです。

ですから家族といっても、日本のような核家族化がすすみ教育ママがでてくるというのは違っていて、非常に共同体的なものだといえますね。この結びつきがあるから、社会は相互扶助組織も強いし柔構造でもあるわけです。それだけに、毛沢東の政治のなかでも、とにかく社会を支え生きていくことができるんじゃないでしようか。いわば、民衆のなかに根強さがあるんじゃないかという気がします。

村松 そういうものが、発展をさ

またげている要素にもなるわけですよ。毛沢東はそれを打ち破ろうとしたわけだが、破れてはいませんね。こどもに奨励して親を訴えさせたりというのは、どこの国でものつてくるヤツはいるわけだし、本質的にはやはり変えられなかったと思います。この相互扶助というか農村などの自衛手段のようなものは、いまでもあると思いますね……。

村落が同族だったりしますから、いまはどうなのかよくわかりませんが、ひとりが政治的な重要なポストにつくことができれば、次つぎに引きたてて一族が繁栄していける。西太后の話にありますね。

西太后が京奉鉄道に乗るんです。これについては、皇太后ともあろうものが西洋の機関車が引っぱる鉄道



すね。

この話でもわかるように、相互扶助にもいい面と悪い面があって、それはひとつには、やむをえない政治的な混乱が常にあるなかで民衆は民衆で自衛しなきゃならないという必要性からおこってきたことでしょ。ともかく大きな変動や、民衆が揺さぶれる事件が次つぎと続く中国では、やはり自衛手段をもち続けていく意味があるわけでしょうね。

中嶋 西太后が汽車に乗ったという話はおもしろいですね。いつごろのことですか。

村松 これはもちろん清朝の末期でしょうね。日清戦争のあとでしょう。

中嶋 というのは、当時の清朝はアヘン戦争のあとでも近代ヨーロッパに代表されるような汽車、汽船をバカにしていたようですね。「孔子さまは汽車、汽船に乗りたまわざるものなりき」とかいって……。それが乗ったというのは、やはりおもしろいですね。

村松 だから、西太后は保守の権化のようにいわれているけれど、そういう連中のなかではものわかりが

いいし、開明君主といったところがあるんですね。どうしようもない保守がたくさんいたんですから……。保守性というのも中国人の特徴かもしれません。

中嶋 先ほど私は家の問題を話しましたでしょう。いま村松先生は一族の問題を歴史的にお話になったんですが、それは実はいまでも残っているんですね。確かに毛沢東の革命というのは、まず家に反抗するといふところからおこったことは事実だと思います。毛沢東自身が父親と仲がわるくて、当時の父権というのは

絶大なものでしたから、彼の第一歩は、父権に対する闘争だったわけです。そこから出発してるんですが、結局、毛沢東自身がある意味ではものすごく家父長になってしまっているわけですね。だからこの問題はいまでも残っている。

さらに、現実の中国の政治をみてそれがいえます。今度の文革で失脚した広東省の陶鑄なども、基盤をつくとみんな陶鑄系統の人ができていた。また、黄永勝が周恩来に引きあげられて北京に行くと、黄永勝系統の人が続々と軍部に地位を占

知識は力なり

—体系的学習のすすめ—



●これが話題のコンピュータ講座です！

文部省認定通信教育

電子計算機講座

主任講師／東大教授 工博 渡辺 茂

情報化時代の適格者をつくる！

今、企業の幹部や一般社員の間で大変な反響を呼んでいるのが本会の電子計算機講座です。すでに800の会社、官公庁でも研修計画に採用し、8万名の受講生を数えております。

情報化時代の適格者——それを育成するのがこの通信講座です。今こそ、あなたも受講をご検討下さい。

■基礎コース

電算機の基礎的知識と技法を体系的に習得するのがネライで一般ビジネスマン／中堅管理者／専門家の基礎学習に最適

■プログラミング・コース

演習中心で基本技法を完全修得／学費は通学の3/4／例題のないユニークな指導体制と教材構成／全員のプログラムをコンピュータでテスト／COBOLもFORTRANも選択可能

■システム・プランニングコース

システム設計の専門家／プログラマーの継続学習・管理者に對するシステマ的思考能力の習得に最適

特 色

- ①産学協同による最高権威の講師陣
- ②電算機通信教育としては唯一の文部省認定
- ③会社・銀行・官公庁・農協が大規模に採用
- ④初級データ・プロセッサの無試験認定制度あり

●受講案内書無料●集団受講には特典あり

●その他、計数管理能力習得のための企業会計講座同時開講！



(社)日本事務能率協会JK係

東京都渋谷区千駄ヶ谷4-1-13 生協会館
電話 403-1331 (大代)

めていたでしょう。同じことは、周恩来系統の人が外務省はじめ行政官僚として、みんな脚光を浴びていることでもわかります。こうした閥閥とか人脈は、どうも中国人にはなくならないんじゃないでしょうか。

村松 残っているような気がしますね。

中嶋 そうでなかったら、いまだに中国の政治をみる場合に、第四野戦軍のときに毛沢東系であったとかないとかいいませんよね。これだけで分析するのも、いささか時代錯誤的かもしれませんが、その要素は決して無視できない。やはり、社会の根底の、いわば一種の中国的な共同体がなくなりえなかったといえる。

人民公社のような形でなくそうとすることもダメだった……。

具体的にいえば香港の難民がいい例です。彼らは二重三重の警戒線を突破してくるわけですから、容易なことではないんだが、すべて相互扶助組織が支援している。農民の間で、だれだれは自分たちの一族だが、幹部に批判されて気の毒だからというので協力して逃亡に力をかします。逃げられるところまでその農民の力はおよぶわけです。だから、

あれだけの教が逃亡に成功しているんだと思います。多い月には成功した人だけで一〇〇〇人以上いるはずですから、失敗したのまで含めると私の推計では三万人ぐらいが逃げてこうと考えているんだと思いますね。

もちろん、それなりの逃亡組織もあると思いますね。逃げてきた人の手紙が、残してきた家族や親戚に全部きちんと届いたり、送金までも着くということですから。

またほかにも、香港あたりに出かせぎにいつている阿媽さんたちが、袋に食料や衣類を詰めて送る光景が郵便局などで見られます。春節、つまり旧正月の里帰りに、たくさんのお物をもって帰って、自分の親戚や縁故にわたるわけですね。これは確

かに中国のいまの経済的な生活水準がまだ低いんだという点もあります。が、やはり同族とか共同体的なものなどが残っているからなんですね。

元来、社会主義の概念からいっても、縁故だから物がもらえなんていうのはおかしいわけですが、それがちゃんと残っているし、また残さざるをえないというところに問題がありますね。中国的なものは、そう簡単には消えないのに、性急になくそうとしたところに、実は毛沢東政治の大きな失敗があったのではない

か。ある意味では、毛沢東自身が時間というものの、永遠というものを考えた人物だったと思うんですが、どうも晩年に至ってちよつとあせりすぎたという気がします。

村松 どうでしょう、毛沢東は他

人を信用するところが薄いように感じるんですが……。そうすると、やはりあせらざるをえないんでしょうね。自分の目の黒いうちにと考えるようになるでしょうからね。

芸術をうけとめる心

ところで、現代社会において、中国の同族的な共同体のいい面を考えてみると、それはわれわれの周囲にたくさんある疎外感というものが少ないだろうということでしょうね。

お互いに助けあっている孤独じゃないわけですから……。われわれは兄弟だって別々に暮らしていて、必ずしも通じ合っているとは限らない。その点、政治的にも動かない限り、



人間的なふれあいをもち続け、疎外感からのがれられることができると思うんです。

中嶋 そのとおりでしょうね。

村松 働きすぎれば失脚する機会もあるいろいろな目にあうだろうが、だからといって世の中、働かない主義はいけないうんなんて新聞にでたりしますが、彼らはじっとして出るクギにならないようにしても、それほど孤独にさいなまれるというようなことはないんじゃないですか。

あまり好ましい状況ではないけれど、人間同志という感じがあるとすれば、それは悪いことじゃないですね。われわれが置き忘れてきたものをまでもっているわけですから。

中嶋 中国がともかく存続してきたのは、こうした共同体的なるものに社会が支えられてそのなかで生活の知恵みたいなものが非常にうまく作用してきたからでしょうね。あれだけの人口があつて、しかも農工業の生産発展の水準がまだ低いにもかかわらず存続してきたのは、ある意味でのしぶとさがあつたからでしょう。これは工業社会にない強さだと思います。公害だとか、文明の機械

がもたらす弊害が少ないということもあるでしょうが、やがて中国が近代化、工業化に向っていくときに、その歴史的、伝統的、民俗的な要素を発展の要素にどうつないでいくかが大きな課題になりますね。性急にあせりすぎると失敗するんじゃないかという気がします。文革というのは、その点でほとんど失敗した。文革によってなにか変わったか、なにも変わらなかったということです。

村松 ただ意識を変えろといつたつて、基礎的な条件は変わらないんですからね。それこそ連中のいう下部構造は同じですから。そこで意識だけ変えようと思つても変わらないう。事実そうだったんでしょう。

中嶋 中国人の共同体的な意識が、非常に根強いものとして社会の底辺を支えていることは事実なんです。それが逆に、いわば西洋的な感覚からいう個人主義を理解させるにくくさせているでしょうね。われわれは同じアジアに育ちながら、西洋的な感覚の個人主義というのに、わりあいなれやすいんですが、中国人はどうもそうではない。

芸術にしても、われわれがヨーロッパの映画を見て、これはいい映画

だと感じるような作品を中国人に見せたら、やはりわからないんじゃないか、あるいは全然理解できないんじゃないかという気がするんですよ。いかがでしょう。

村松 文芸に対する感覚というのは、ずいぶん違うと思います。歩いて鑑賞するというよりも、そのなかに入つてしまふところが強いと思いますね。だから京劇などでも、古いものは王侯将相、才子佳人が主人公だからいけないというのは影響される面が強いからでしょうね。われわれは江戸時代の芝居を見たからといって、忠義の心をかきたてられたり、義理人情に厚くなつたりということはないですが、彼らは、ちょっとそういうところ、わからないです。

紅樓夢論争のときに山東大学の先生が、『紅樓夢』はよくない小説だというんですよ。主人公というのは、きれいな女のコに一生懸命サービスして、またどのコにも親切にするわけなんです。そのまねをして、山東大学の学生にもガールフレンドをたくさんつくつて得意になっているヤツがいるんだというわけです。こうした悪い影響があるという

専門家養成！

健保請求事務とは

今、私たちが医師にかゝる場合ほとんどが健保や国保などの社会保険によつていますので、医師はその診療代金を支払い側に一ヶ月に一度、まとめて、カルテから整理計算して提出します。この仕事健保請求事務です。

◆ 歯科四ヶ月 内科六ヶ月で専門知識と技能の修得ができます。

◆ 急速な医療保険の普及により、全国的な人材難の為どこでも医師が切実に求めています。

資本なしで独立も可

◆ 前月分の請求を翌月五日六日までにする為、月末からの一週間程で仕事がつまみ、医師との契約で有利なサイドビジネスができます。又バイオニア精神の持主には工夫と努力次第で、将来共に有望な専門事務所開設により独立もできます。

◆ 詳しくは案内書(150円)を左記へ

日本医療経営新社

〒110
東京都台東区東上野6-23-10

んです。

これに関連しておもしろいのは清朝のころのことですが、侵略されている対外政策のひとつとして『紅樓夢』を輸出しろといった政治家がいることです。彼らに『紅樓夢』を読ませれば、みんなやわらかくフニャフニャになって、われわれは侵略をまぬがれるであろう(笑)。

中嶋 アヘン戦争の逆ですね。村松 つまり、それほど彼らは『紅樓夢』に毒されているわけですね。中国人というのはそういう読み方をするらしいですよ、文芸作品を。享受の仕方とわれわれとは違う。ですから、ソ連の映画などについてもすごい批判をしている。チュファイという人の作品は人道主義を

うたっている。すると階級観念を無視したといって激しくさわぐ。作品を鑑賞するというより、そのなかに没入してしまう傾向が強いように私には感じられますね。

最近では、没入することをねらって古い京劇をなくして革命京劇だけにしています。でもそうそううまくはいかないらしく、色気もなにもない革命京劇じゃ、やはりつまらない。そこで変なところに女性を登場させて濡れ場をつくらたりするらしいですよ、かつて。

中嶋 いまでもあるんですよ。文革後、つい最近の話なんですけどね。それがまた批判の材料になっているんです。私はプチブルなのかもしれないけれど、とにかく女性がお

化粧を全然していない世界というのは異様でしたね。

村松 私は、彼女たちが自らすすんで社会主義建設のために化粧をするという心を放てきしているとは思いませんよ。

一九五六年、百家争鳴で、あのときだけは自由にものをいおうというわけだったので、私はそのときに北京大学の女子学生に頼まれて、百貨店へ中国服の生地の見立てについていったことがあるんです。そのコが生地を選ぶ様子は、日本の女性のそれと変わりがありません。アレ引っぱりだしたり、さわってみたり、鏡の前で肩にかけてみたりですね。

日本で新聞を見ると、中国の

女性はおしゃれをしたがらないなんて書いてありますが、私はその様子を見ましたんで「あんたきれいなりたいのか」と聞いたら「だって私女ですもの」というんですよ。これは本音だと思えますね。だからいまの女のコーデって、もし体制がゆるんでそういう風潮がでてくれば、すぐおしゃれをしますよ。女は少しでもきれいになりたいくない道理がないです、人間ですから……。

そういう点まで「中国人は……」という特製のようなことをいう人がときにはありますけど、かえって中国人を蔑視したい人だとも思いますね。

山上一夫編

従業員定着 財産形成 シリーズ

全5巻

従業員定着と財産形成の重要な柱として各種制度の導入が真剣に考えられはじめた。本シリーズは、これら制度の運営を税務面と一体化しつつ斯界の権威・新鋭によって書き下したものである。

▶総務・労務・経理のデスクに必備!

- | | | | |
|--------------|-------|-------|--|
| ⑤ 出向・転籍制度 | 山上一夫著 | 税務と運営 | 出向および転籍の法的根拠と会計ならびに税務上の取扱いの解説。A5判・二二〇〇円/綴刊 |
| ④ 企業年金・退職金制度 | 高田修治著 | 税務と運営 | 従業員定着と財産形成の重要施策として年金と退職金の制度導入の解説。A5判・二二〇〇円 |
| ③ 社内預金・貸付金制度 | 高野幸一著 | 税務と運営 | 法的な規制を含めて全面的な解説。合理的な運営の実務を示す。A5判・二二〇〇円 |
| ② 従業員持家制度 | 横山和夫著 | 税務と運営 | 従業員持家制度を金融および税務の全領域から運営法までを詳解。A5判・二二〇〇円/綴刊 |
| ① 従業員持株制度 | 山上一夫著 | 税務と運営 | 制度の現状、運営の方法(関係法)を最新資料により企業形態別に論述。A5判・二四〇〇円 |

日本経営出版会

東京都渋谷区千駄ヶ谷4-1-13
TEL 東京 (403) 8661

時間への豊かな信頼

中嶋 私は先ほど、西洋的な個人主義は中国に入りにくいと申しあげたのですが、だからといって、同族だけとか家だけが繁栄するというところに彼らが生きがいを感じているのかというと、そうでもないと思っています。つまり、ある意味では戦時中の日本がそうだったように、社会とか国家というものをみていると思うんです。ですからいまの中国人は、民族といったものをひとつの生きがいに行っているんじゃないでしょうか。核実験が成功したといったらあんなに喜んだり、これは日本人以上のものがありますね。

それともうひとつの生きがいは、生活をよくしていくということでしょうね。彼らの場合は、いままでたべることも困難だったわけですから、日本人のように衣食——住はちよっと別にして——足りたうえで生きがいというぜいたくなものとは違わうでしょうね。

それに生きがいといえば、やはり中国人はいまでもたべることです

ね。おいしいものをたべること。料理に対するうちこみ方でも中国料理は世界一なんです。日本とはだいぶ違いますね。本当の中国料理は、とにかくつくるだけで非常に時間をかけてますからね。フカのひれにしてもそのほかにしても、前日からよく煮こんでいる。場合によれば一週間も前から用意しています。お酒にしても老酒などは、嫁入り老酒といつて、女のコが生まれると土のなかに埋めて、ほぼ二〇年くらいおいとくわけでしょう。こうした長い時間をかけて料理を味わうというのは、たいへんな生きがいではないですか。本当は中国料理そのものが解明できれば、中国文明も本当に解明できるんじゃないかと思うくらい底が深いものだと思う。

村松 中国人は、食うということでは、われわれと執念が違うんですね。

中嶋 それは、必ずしも王候貴族だけじゃなくてそうだと思うんですよ。老舍の『駱駝祥子』のなかに上海でカニをたべるところがあります。上海のカニは洋澄湖のカニで淡水でできる。これはいまごろ一番おいしくてほったのおちるよううまさ

なんです。私が行ったときには一月でしかたけなかったんです。香港には輸出用ででていますけれども……。ですからいまの中国で上海ガニがたべられるかどうかはともかくとして、それをたべるために一日のかせぎを全部はたいて、借金までしてたべて喜びをみいだすということはありませんね。貧しいなかで耐えてきたわけですが、どこかにちよつとした余裕をもっているともいえそうですね。

村松 とにかく食うことをよく研究していますね。日本のごちそうは、サシミといつても生のものを切っただけ、あんなのはごちそうとはいえないですよ（笑）。あらゆる手段をつくして、どうしたらうまくなるかを研究してつくったものが料理ということでしょう。

われわれはサツとすまして、あっさりしているなんて喜んでいますが、あっさりしているのは、いわば手をつくしてないことですからね。だから料理以外のことをよくいう、包丁の切れ味だなんてことを。それは切り方が問題であるけれど、要素のひとつであって第一に問題にすることではないでしょう。

これはおやじ（梢風氏）から聞いた話なんです。金持ちが豚を料理するときには、下男に豚の尻をこん棒でぶんぐらせるそうですよ。すると、キーキーいつて逃げ回りますね。そのたびに尻を叩いて、さんざつばらそうしておいて、その尻の肉をたべます。叩かれて痛いところに神経が集中するから、うまみがそこにでるといいます。本当にうまくなるのかどうかしらないけれども、そこまで研究して一頭の豚の尻の肉だけをたべるといふのは、日本人は考えちゃいませんね。

だから、人生をどうしたら楽しくすごせるかということでは、中国人のほうが上だろうと私は思うんですよ。

中嶋 日本人は、やはり週休二日制にして、食事時間を二時間くらいとってゆつくりたべるべきでしょうね。それをもう少し考えたら、エコノミック・アニマルなんていわれなくなるんじゃないか（笑）。

村松 やみくもに働いてこまできたんだから、多少そういつたことを考えてもいい時期かもしれないですね。そういうながら、こつちは忙しくてサツとめしを食っちゃっている

んだけれども(笑)。その点、中国人はゆとりがあるように思いますね。

中嶋 最近、香港あたりに日本のラーメンがずいぶんと輸出されているそうなんです。香港などのビジネスタウンは、かなり忙しいんだらうと思います。それには日本のラーメンがいいんです。中国人がたくさん使いましたから、日本の悪い面が影響していくこともありうるかもしれませんね。

村松 インスタントになっちゃってね……。

中嶋 中国人は決してなまけ者じゃないわけで、これは東南アジアの連中と比べれば明らかですが、そうしてよく働きながらどこかに余裕をもっているという感じがしますね。やはり、どこかに時間というものに対する考え方が根本的にわれわれと違うんでしょう。中国の長い歴史をみると、いまの毛沢東体制にしろ、共和国ができてから二一、二年でさっぱりわからない。歴史年表には王朝の変遷がたくさんあるわけで、どうもそういった一コマであろうと見込んでいるんじゃないでしょうか。それからもうひとつ、これはいま

の中国にはまずいことかもしれません。台湾の故宮博物館、ここにはたいへんな美術品があるわけでしょう。国民政府が南京からあちこちに追われ、重慶に行き広東に行き、そして台湾まで逃げてきたときに、あれだけの文化財を全部汽車で、最後には駆逐艦だか巡洋艦で運んだんですね。世界がどう動こうと、中国がどう変わろうと、この文化は守るんだ、文化においては負けないんだというような気概がみえます。これも時間に対して非常に信頼があるから、いつかはその仕事、歴史のなかに正当に評価されることがあるだろうという気持ちからなんでしょうね。

この点からいえば、いまの毛沢東体制、毛沢東絶対など、ということも、いずれは歴史のなかに正当に相対化されて評価されるだろうし、毛沢東によって失脚させられた人たちがだって、もう一度歴史のなかに書きかえられる時期が必ずくる。ソ連でさえもそうであるから、中国ではなおさらのことではないでしょうか。

(おわり)

あなたの経営に生かす「声のデータバンク」

71 産業情報パック

日刊工業新聞

声の週刊カセットテープ



今日のようないろんな情報過多ともいえる時代において、自分が本当に必要な情報を選択することは容易なことではありません。とりわけ激動する国際情勢の矢面に立たされている産業人にとって、情報選択は不可欠な条件です。「産業情報パック」は、こうした産業人に役立てていただくために収集したオーディオ・カセット・テープ、声のデータバンクです。明日の産業界の進むべき道をつけるために「産業情報パック」を積極的に活用下さい。

テープ内容 (六十分ものオーディオ・カセット・テープ二本の構成になっています。)

- A面 産業界の話(二十分)
- B面 話題をさぐる(十五分) 経営戦略シリーズ(十五分)
- C面 ITツヴァネジノントコナー(経営者は語る、経営問答レジャーなど)(二十分)
- D面 知識の広場(官公庁公告の解説、法律相談、特殊競争、新技術・製品の紹介など)(二十分)

テープ配布

会員に毎週金曜日カセットテープ六十分もの二本、一カ年合計九十六本をお届けします。

申込み会費

会員制、入会金一万円、会費一カ年十四万四千円、計十五万四千円を添えてお申込み下さい。

申込み先

株式会社 バックIR係宛

ヘビデオ・オーディオ・センター

〒115-1 東京都渋谷区代々木二一六ノ八 中島ビル

TEL 〇三(370) 一 二 七 一

企画制作・日刊工業新聞社

お申し込みは、お電話か、お申し込み書(封入)でお送りください。